ロータリー月例報告 2021 年 11 月分　（12 月 3 日提出）：前学期の最終課題について

2021-22 年度 地区補助金奨学生
スウェーデン・ヨーテボリ大学
和田 哉恵

例年の 12 月は雪がほとんど降らないヨーテボリですが、今年は既にマイナス 5 度程度の気温が何日も続き、先週の土曜日からの降雪のお陰で道路はいまだに雪が積もっています。12 月も相変わらず陽が短いスウェーデンですが、街のクリスマスイルミネーション[写真2]、各家庭のバルコニーの灯り[写真3]が雪に反射し、最近は陽が沈んでからも少し外が明るいように感じます。クラスメートにヨーテボリは 2 月頃にさらりと雪が降る程度と言われ、今年はホワイトクリスマスを経験できないのかと残念に思っていたのですが、今は予想外の 12 月の雪景色に心が躍っています。

さて、勉強に関してですが、先月の期末課題の成績・フィードバックが返ってきました。結果は[Pass with Distinction(VG)]で、こちらも予想外の結果で正直驚きました。内容としては前学期の授業『ジェンダー学における研究理論』で習った「ジェンダーや人種、階級などの社会因子が交わってどのように差別・抑圧を生み出しているのか」を論じた Kimberlé Crenshaw の「交差性・複合的差別（Intersectionality）」と、「人の命に対する評価が人種・性によってどのように変わっていくか」について論じた Jasbir Puar の「ホモナショナリズム」の 2 つの理論を用い、米国における反アジアヘイトクライムの報道において黒人男性が犯罪者として継続して描かれている要因・背景を考察しました。

学部時代に米国における黒人男性の制度・構造的差別について論じた Alexander Michelle の *New Jim Crow* を読んだこともあり、日本にいた頃からコロナに起因するアジア系へのヘイトクライムに関する報道を繰り返し見る中で、アジア系を狙った暴力行為に恐怖を感じるとともに、「なぜ黒人男性が加害者の映像のみばかり報道されるのか」（統計的にはヘイトクライム加害者は黒人よりも白人の方が多い）、「なぜ加害者の人種的背景が黒人の場合のみ、彼らの人種について触れられるのか、これも一種の人種差別なのでは？」と犯罪者として描かれた黒人男性のメディアにおける表象に疑問に感じていました。自分の関心のあるテーマかつ長い時間をかけて一生懸命かいた論文が高く評価されたことはとても嬉しく感じています。ですが、一方で考察のため何度も被害にあった方の映像を見ていく中で心が苦しくなることが多くあり、これまでの英文学研究とは異なり、差別や不平等問題など人々の暮らしの中でもよりセンシティブな部分の問題を扱う学問の難しさも同時に感じました。

現在は、ジェンダー学における方法論の授業を受けており、数日後の締め切りに向けてエッセイ課題に取り組んでいます。引き続き、よい成績を維持できるように一生懸命取り組みたいと思います。

写真１：雪の降り積もったキャンパスの様子

写真２：ヨーテボリの遊園地 Liseberg のクリスマスイルミネーションの様子。今年のクリスマスはスウェーデンのご家庭で迎える予定なので、来月の月例報告ではスウェーデンのクリスマスについて少しお話ししようかと思います。

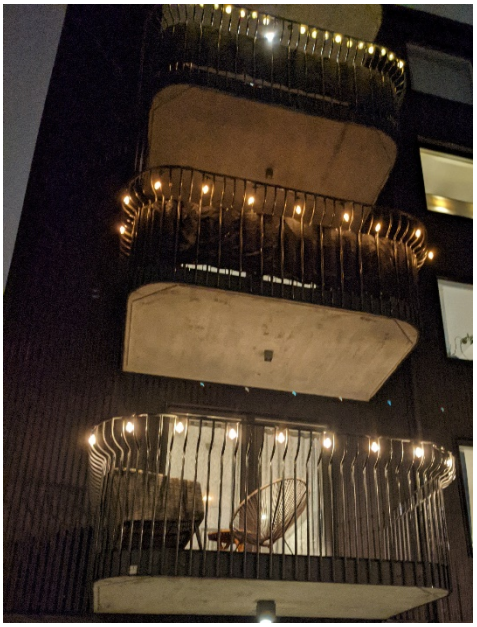

写真３：各家庭のバルコニーにつけられたランプ（Ljusslinga）の様子。秋頃からバルコニーや窓際を灯りで装飾しているお家が多いです。友人曰く暗い時間の長いスウェーデンならではらしいので、現在借りているお部屋のバルコニーに合うお手頃なものをせっかくなので付けてみました。（写真一番下）